

登坂板からタイヤ外し、脱落事故

事故事例KYT資料 Vol.2 (5月)

2017年5月
発行：コマツ建設株式会社
地域推進部

WA150-6 (新車) 納入荷降し時、歩み板からの タイヤ脱落事故

1. 発生日時： 2018年 10月 16日 08: 00分頃
2. 発生場所： 株式会社 建設現場 (神奈川県横浜市中区)
3. 事故当事者： 所属： 〇〇〇〇リース建設(株) 職種： 運転手
年齢： 37歳 勤続年数： 9年 経験年数： 15年
所属区分： 〇〇〇〇社員 〇〇〇〇社員 〇〇〇〇社員 〇〇〇〇その他()
4. 事故概要： 作業名： WA150-6 新車搬送、荷降し作業 歩み板幅450mm
運送車両： 荷台トレーラー
(最大積載量25t、荷台幅：2990mm 荷台高さ：680mm 中継り長さ6000mm)

10/15 (火) 天候： 雨
PM コマツ建設販売関東東京カンパニー株式会社 (神奈川県川崎市) で、当該設備を確認する。

10/16 (水) 天候： 曇り
8:50 納入場所である株式会社 建設現場に到着し、依頼元のコマツ建設販売関東東京カンパニー株式会社の立会いのもとバック走行で荷降し作業を開始する。
この時、トレーラーに4本積みである歩み板を2本(左右1本ずつ)しか使わずに荷降し作業を進めた。
(立会いの要請に担当者から、4本(左右2本ずつ)の使用を促されたが、ドライバーは理解なしと判断し、荷降し作業を続行した。)

※歩み板の幅は200mm/本。 ※誘導員は、既に荷降し場を離れており不在であった。

9:00 歩み板走行中に当該設備が動揺し、ステップ及び下部フレームが歩み板と接触し、損傷した。(ドライバーの視認は無し)

9:15 当該建設会社から当社へ、事故発生の電話連絡が入る。

11:30 当該設備を、確認し場であるコマツ建設販売関東東京カンパニー株式会社へ搬送し、整備場にて損傷状況の確認・確認を行う。
(この時の確認し場は、歩み板を左右1本ずつレバーブロックで固定し計4本使用) (※1枚写真参照)

5. 状況写真 (写真がない場合ポンチ絵でも可) :



事故の原因はどこにありますか？

- KYT実施協力会社様回答より抜粋(7社)
- ① 歩み板を4本積んでいたのに2本しか使用していなかった。
 - ② 歩み板手前で停止し機械と歩み板とのスレを確認しなかった。
 - ③ 誘導員が不在で1人作業になっていた。
 - ④ ドライバーの経験年数からくる過信。
 - ⑤ ドライバーが立会い営業担当者の言うことを聞かなかったから。
 - ⑥ 歩み板が80kgくらい有り出すのが面倒だった？
 - ⑦ 手抜き行動。

どのような対策が考えられますか？

- KYT実施協力会社様回答より抜粋(7社)
- ① 種別機械に応じて適切な歩み板の本数を使用する。
 - ② 傾いた機械であっても歩み板手前で停止し機械と歩み板とのスレを確認する。
 - ③ 誘導員又は立会い者がいる場合は見てもらう。
 - ④ 経験年数が過信になるのではなく、経験を生かした安全作業を行う。
 - ⑤ 天候によって危険が高まることもあるので、天候を考慮して作業を行う。
 - ⑥ 誘導員がいなければ立会いの営業担当者に誘導してもらう。
 - ⑦ 自動歩み板に変更する。

コマツ積込より
過去にもWA100が200mm幅の歩み板1枚使用で、雨天降る中に脱輪し損傷させています。
事故の後に弊社では、WA100と150は歩み板1枚使用の場合は幅は270mm以上と決めました。
この事故のように歩み板幅が200mmの場合は、左側写真のように2枚並べてレバーブロック等で連結して下さい。

歩み板手前では停止し、タイヤと歩み板のスレを確認してください。
この確認を怠り、荷台から転落する事故も発生しています。
誘導員がいれば、積降中のタイヤと歩み板のスレを確認してもらって下さい。

WA100、150の積下事故は特に多く、注意が必要です。